

# 若者実態調査のまとめ

市内中学生アンケート調査  
市内高校生アンケート調査  
市内若者アンケート調査  
市外転出者アンケート調査

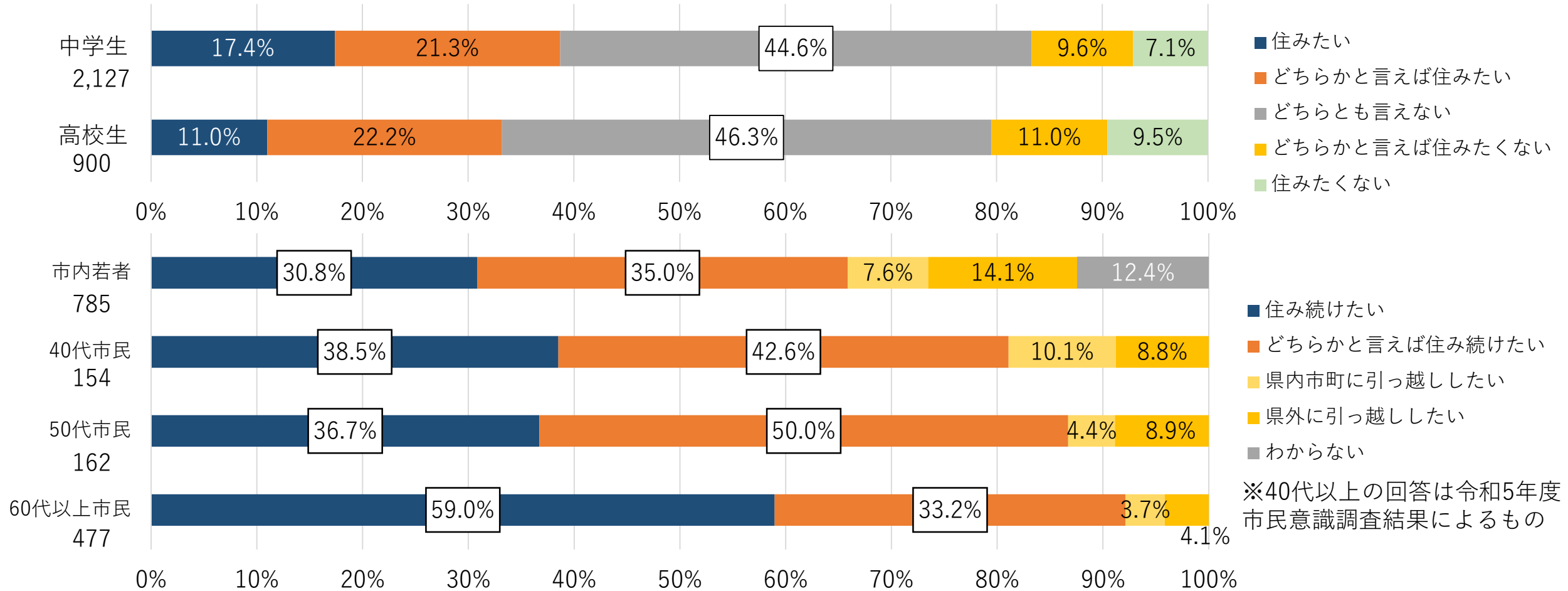
# ■調査内容一覧

こども若者施策の検討にあたり、当事者の声を聴く「こども若者ボイス」の一環として、また若年層の転出超過を改善に向けた施策を検討するため次の実態調査を実施した。

調査名	中学生アンケート	高校生アンケート	市内若者アンケート	市外転出者アンケート
調査対象数	市内中学在籍生徒 3, 173人	市内高校在籍生徒 2, 579人	市内居住の18歳～39歳 4, 000人(無作為抽出)	本市に居住経験があり、 現在市外に居住している 18歳～39歳の人
回答数	2, 127人 (回収率67.0%)	900人 (回収率34.9%)	785人 (回収率19.6%)	269人
調査時期	7月14日～9月11日	7月20日～9月11日	7月20日～9月22日	7月26日～9月30日
主な調査項目	将来居住希望 長浜への親しみ度 地元企業の認知度 歴史文化への関心度 住み心地や機能への満足度	将来居住希望(Uターン含む) 長浜への親しみ度 地元企業の認知度 歴史文化への関心度 住み心地や機能への満足度 生活や人生等への自己認識 職業観	将来居住希望 長浜への愛着、評価 人生観・幸福感・居場所 社会貢献 将来への希望 仕事や生活に関する認識 子育てや教育へのニーズ	市外への転出理由 将来のUターン意思 長浜への親しみ、愛着度 市内企業の認知度 仕事や生活に対する考え方 子育てや教育で重視すること 長浜に求める機能や要素

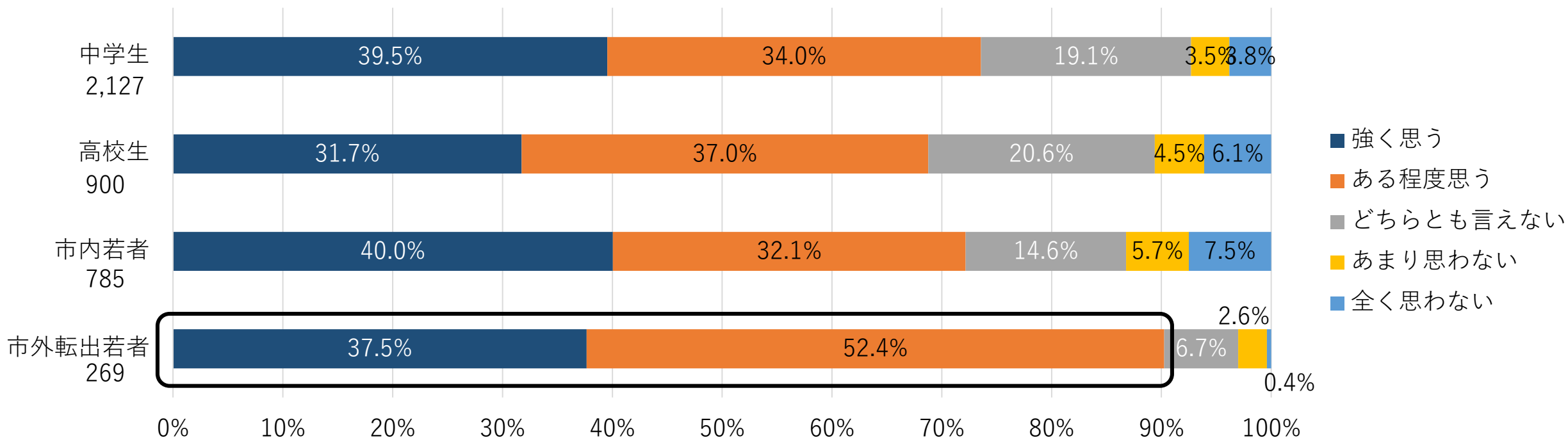
# ■ 調査結果 ※各調査で共通した設問やクロス分析、他調査等との比較など

## ➤ 将来も住み続けたいと思いますか。



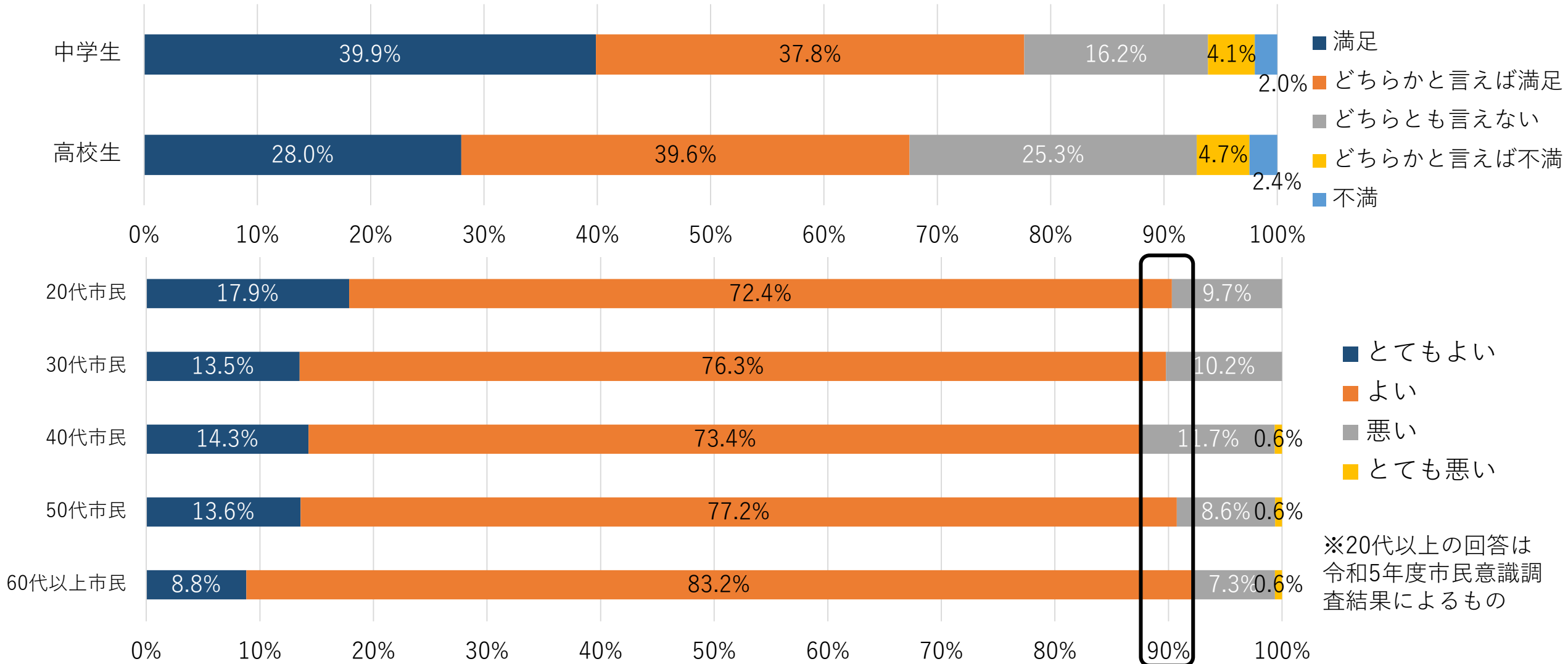
- ・ **中高生の3～4割が将来も住み続けたいと思っているが、半数ほどはまだ考えが定まっていない。**
- ・ 20歳代以降になると居住希望割合が大きく増える。市内若者回答者の約7割が働いており、その**就労者の7割が将来も居住希望**している。一方、市内若者のうち**学生に限ると、居住希望は5割を切る(49.3%)**。
- ・ 仕事に就いた段階で将来の居住に対する考え方が大きく影響すると考えられる。

➤ 長浜市に親しみや愛着がありますか。



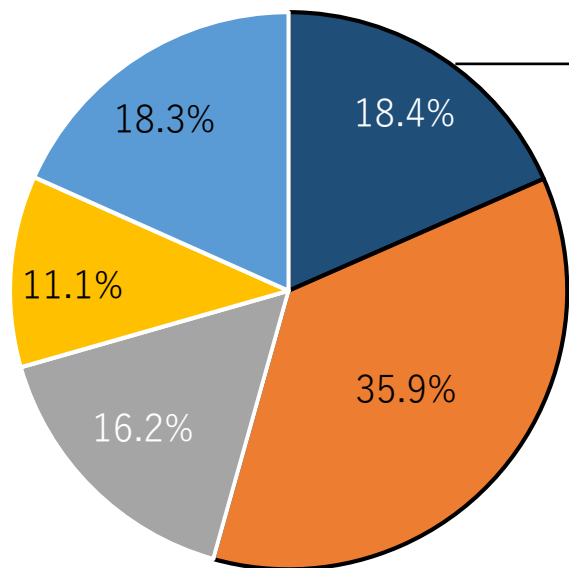
- ・ 子ども・若者世代によって大きな差異はなく、約7割が長浜市に親しみや愛着をもっている。
- ・ 市外に転出した者の方が、愛着や親しみを感じている傾向が強く、故郷（地元）に何かしらのつながりを持っていたい意識が見受けられる。（市外転出若者の長浜市との関わり方として、帰省や家族・知人に会うなど、人間関係を介する回答が多い）

➤ 長浜市の「住み心地」についてどう思いますか。



・中高生は行動範囲や社会との関わりがまだ限られているため、どちらとも言えない回答が一定数あるものの、**各年代問わず、住み心地は良いと考える人はとても多い。**

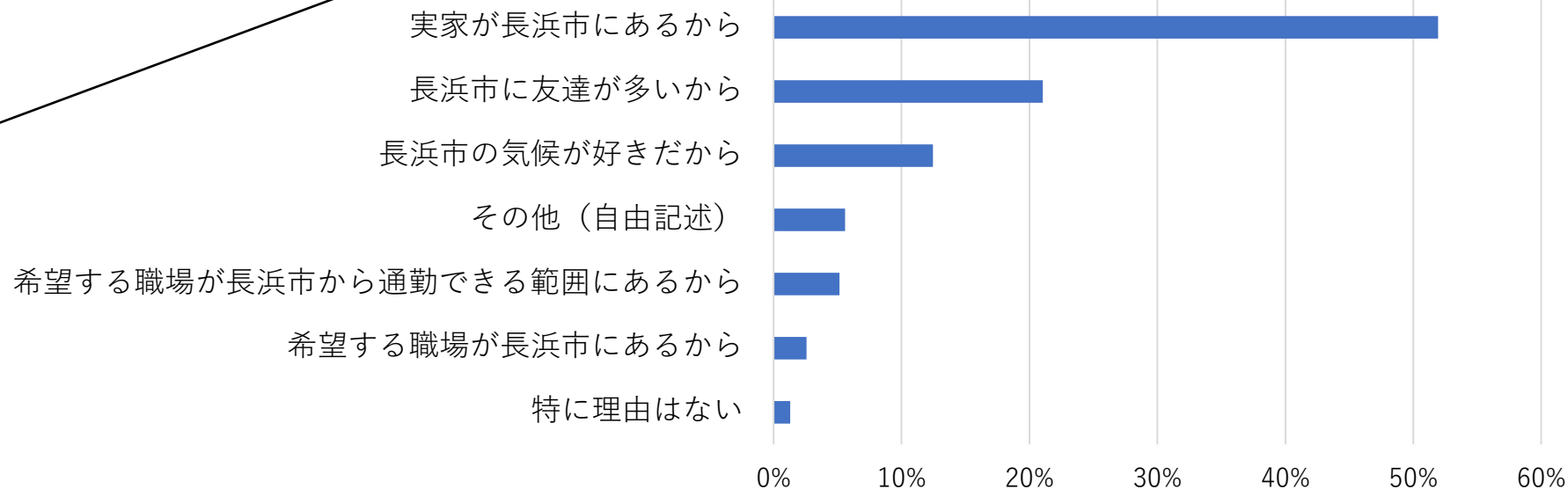
➤ **〔市外転出若者〕** 将来、長浜市に戻って暮らしたいと思いますか。



- 暮らしたい
- どちらかと言えば暮らしたい
- どちらかと言えば暮らしたくない
- 暮らしたくない
- わからない、無回答

・ 家族や友達との関係を大切にしている傾向が強い。

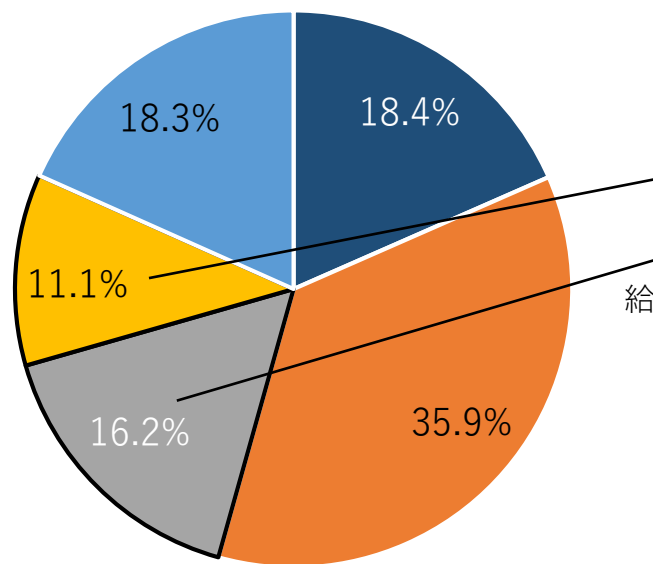
【長浜市に戻って暮らしたい理由】



<参考> 住み続けたい理由は何ですか。(R5市民意識調査で、年代別上位3つ)

	10,20代	30代	40代	50代	60代以上
1位	住み慣れていて愛着がある	住み慣れていて愛着がある	住み慣れていて愛着がある	住み慣れていて愛着がある	住み慣れていて愛着がある
2位	家族や友人がいる	家や土地を持っている	家や土地を持っている	家や土地を持っている	家や土地を持っている
3位	家や土地を持っている	家族や友人がいる	家族や友人がいる	家族や友人がいる	日常生活が便利

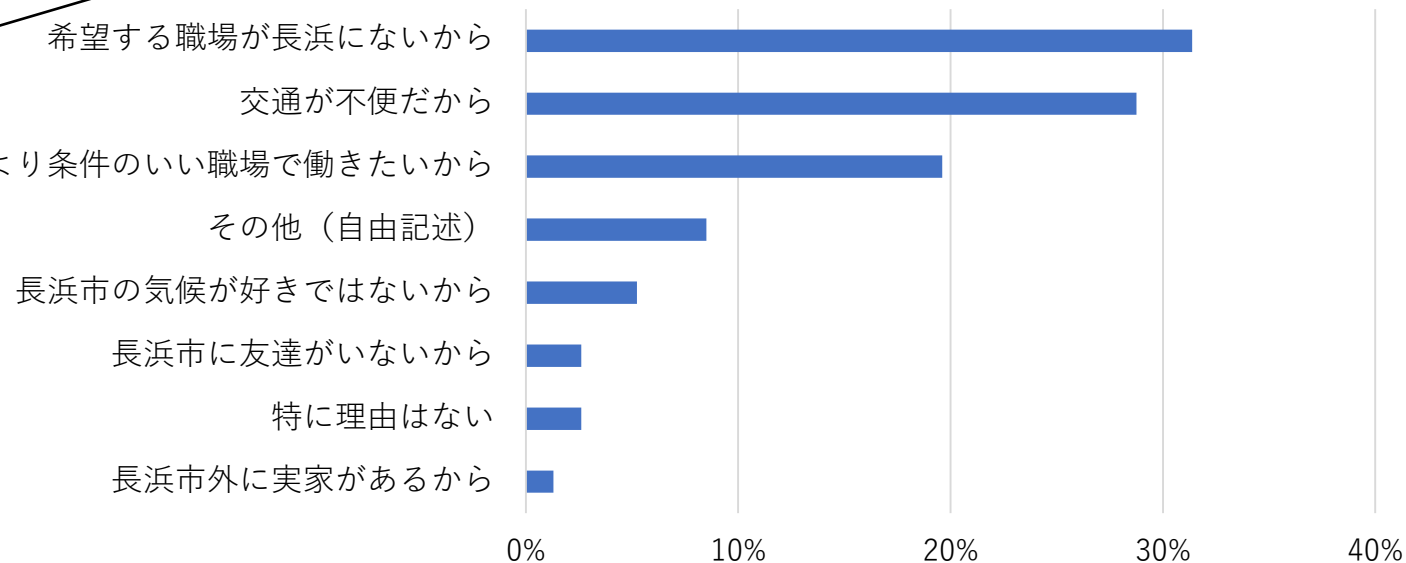
➤ **〔市外転出若者〕** 将来、長浜市に戻って暮らしたいと思いますか。



- 暮らしたい
- どちらかと言えば暮らしたい
- どちらかと言えば暮らしたくない
- 暮らしたくない
- わからない、無回答

・若年層については日常生活に加え、仕事や余暇活動が居住判断に影響を与えている。

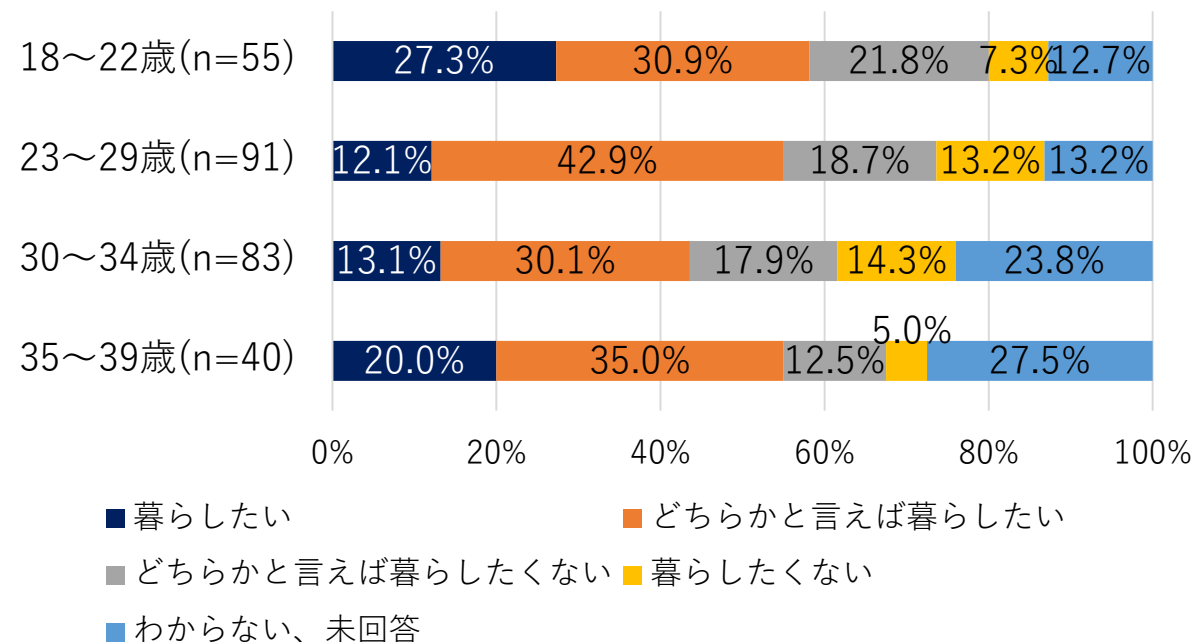
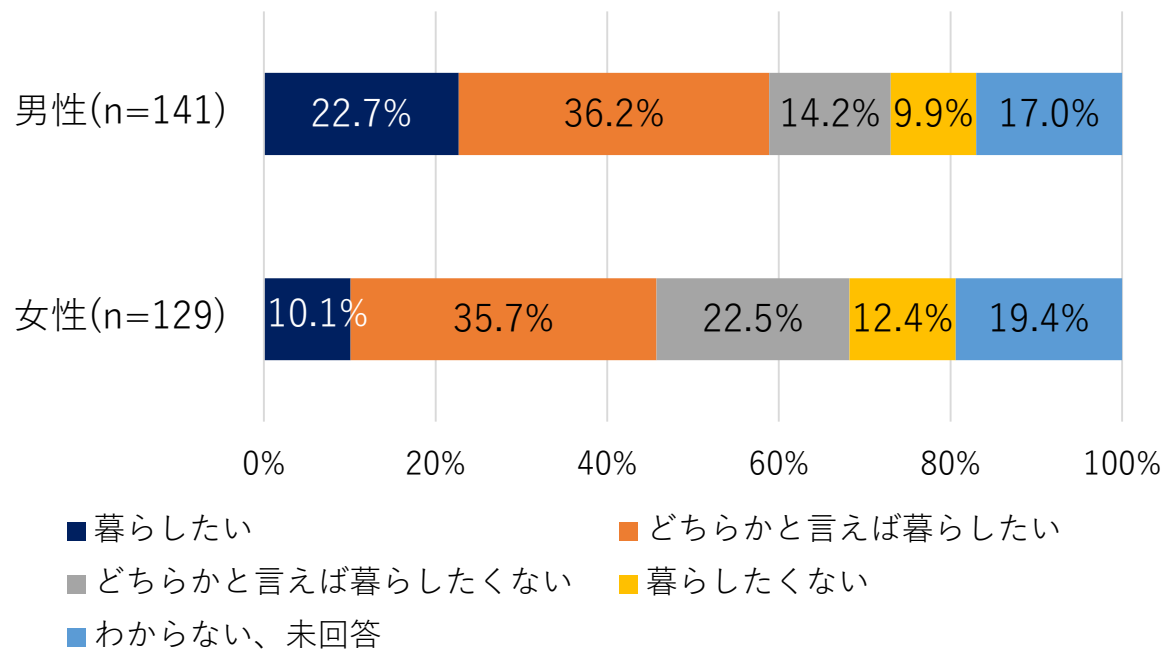
＜長浜市に戻って暮らしたくない理由＞



＜参考＞ 転居したい理由は何ですか。（R5市民意識調査で、年代別上位3つ）

	10,20代	30代	40代	50代	60代以上
1位	交通の便が悪い	交通の便が悪い	交通の便が悪い	交通の便が悪い	交通の便が悪い
2位	希望する職場や仕事がない	日常生活が不便	土地柄になじめない	土地柄になじめない	日常生活が不便
3位	日常生活が不便	余暇活動の場が充実していない	日常生活が不便	日常生活が不便	土地柄になじめない

➤ **〔市外転出若者〕** どのような属性の人Uターンを希望しているのか。（性別、年代別）



- 男性の方がUターンを希望している割合がやや高い。
- 年代別では、若年層の方がUターン希望が多い傾向がある。※18～22歳のうち87%は学生で、割合は同年代平均とほぼ変わらない。
- 30～34歳は他の年代よりUターンの希望割合がやや低い。※この年代の特性についてはP 9 参照



➤ **〔市外転出若者〕** Uターンの希望が少ない30～34歳の人の思考傾向は？

(1) 長浜市での生活にどのようなイメージをもっているか？

家族・友人が近くにいることで生活面のフォローが期待できる	84.3% ↓
時間や気持ちにゆとりが持てる	71.1% ↓
生活費が安い	57.8% ↑
仕事と生活のバランスがとれる	51.8% ↓
日常生活が便利	43.4% ↓ ↓
自分が成長できる環境がある	19.3% ↓
自分のやりたい仕事ができる	18.1% ↓
新しい出会いや発見が得られる	12.0% ↓

(3) 子育てについて、大切だと考えることは？

安全に遊べる場所があること	75.9% ↑ ↑
医療費や給食費など、子育てにかかる費用負担の軽減	74.7% ↑
子どもを安心して預けられること	74.7% ↑ ↑
子育てに対する職場の理解	72.3% ↑
ワークライフバランス	62.7% ↑
質の高い教育、特色ある教育	51.8% ↑
地域コミュニティ、近隣の助け合い	36.1% ↑
充実した習い事、文化スポーツ活動	25.3% ↓
公共交通（バス、デマンドタクシー）の充実	25.3% ↓
その他、とくになし	7.2% ↓

(2) 仕事や生活全般についてどのような考え方をもっているか。

自分のやりたいことやスキルを活かせる仕事がしたい	96.4% ↑ ↑
仕事よりも、趣味や自分の生活を優先させたい	72.3% ↓ ↓
誰でもできることではなく、自分だからこそできることがしたい	71.1% ↑
伝統や歴史文化を大切にしたい	62.7% ↑
自然が豊かなところで働きたい	59.0% ↓ ↓
都会で便利な生活を楽しまたい	56.6% ↑
新しいものや流行に敏感でありたい	49.4% ↓

各質問に対して、肯定的な回答（「そう思う」または「ある程度思う」と回答）した割合が高い順に整理した。矢印（↑↓）は全体値との比較で、2本矢印は全体値より4%程度離れているもの。

- ・長浜市での生活イメージに関しては、総じて肯定的な回答割合は低い。
- ・「自分のやりたいことやスキルを活かせる仕事」「自分だからこそできること」など労働意欲が高く趣味や自分事、自然などへの思いは比較的低い。
- ・世代的に子育てについては総じて関心が高い。
- ・長浜の特性と共感しづらくUターン希望が少ないかもしれない。

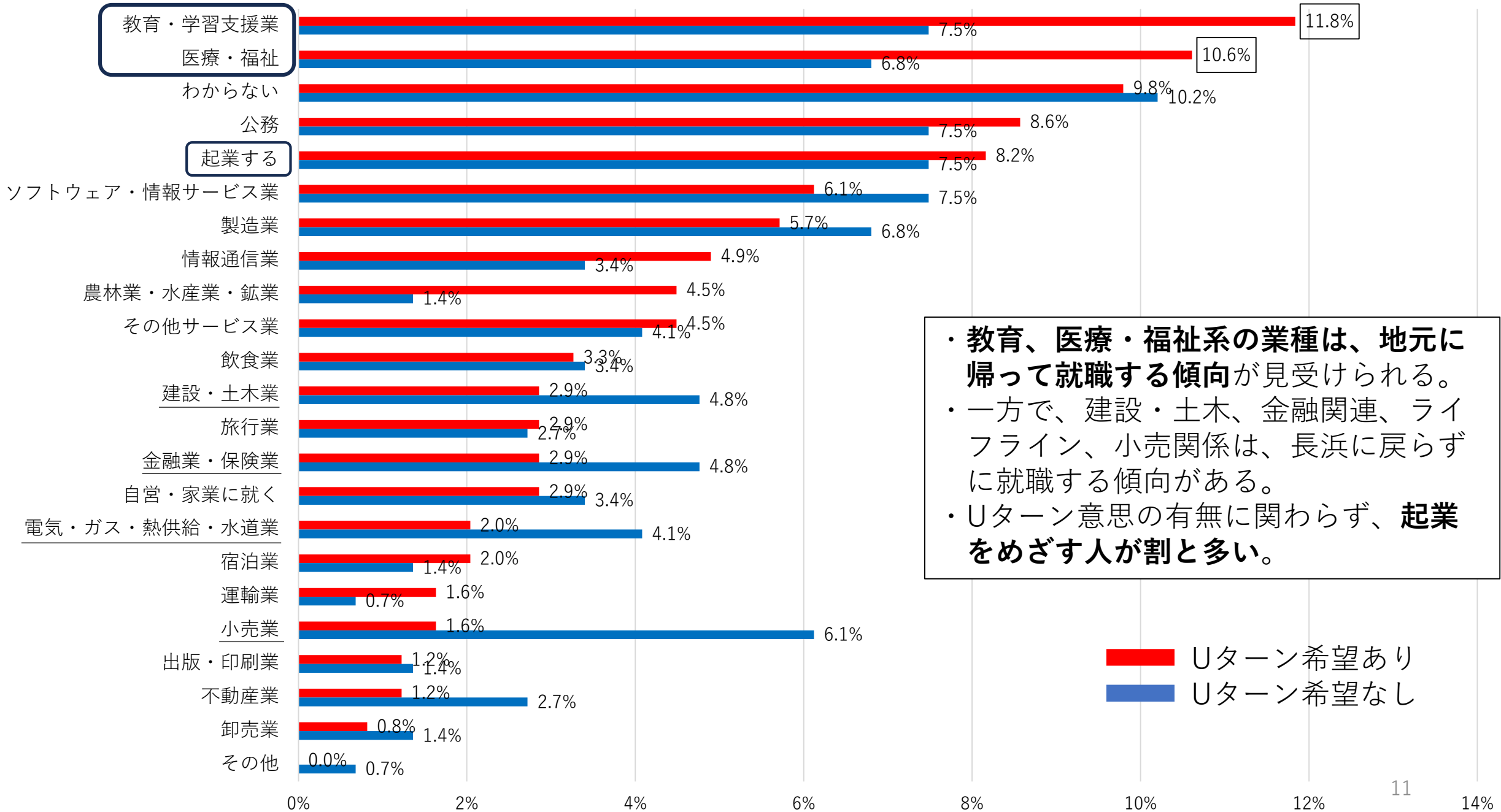
➤ **〔市外転出若者〕** どのような条件があればUターンしやすいのか。

	戻りやすい要素=Uターンを希望している人 戻ることを検討する要素=Uターンを希望していない人	Uターンを希望している人	Uターンを希望していない人
仕事関連	給料の高い仕事	53.5%	42.2%
	希望する業種や職種	56.7%	46.9%
	リモートワークができる環境	22.8%	29.7%
	起業支援	11.0%	12.5%
	育児休暇をとりやすい職場	27.6%	18.8%
	女性が活躍できる職場	11.8%	12.5%
人間関係	余暇の時間を一緒に過ごすことができる気の合う友達や仲間	33.1%	15.6%
	よそから移り住んでくる人を温かく迎える地域社会	19.7%	10.9%
住環境	学問や教育を高める機会が充実していること	24.4%	20.3%
	充実した公共交通網	38.6%	45.3%
	居心地の良い飲食店や居酒屋、おしゃれなカフェ	33.1%	25.0%
	大型ショッピングモールや有名百貨店	22.0%	34.4%
	長浜市に対するよい評判や明るいイメージ	16.5%	6.3%
	地域の人で集まることができる公共施設や公園	16.5%	9.4%
政策的支援	結婚に関する支援（婚活イベントや結婚相談など）	5.5%	6.3%
	大学を含む教育費支援	16.5%	17.2%
	奨学金返還支援	11.0%	7.8%
	子育てに関する経済的な支援	40.9%	32.8%
	介護に関する経済的な支援	29.1%	10.9%
	住居支援（新築・増改築への支援）	40.2%	21.9%
その他（自由記述）	どのような条件があっても戻ることを検討しない	—	6.3%
	n=	127	64

	戻りやすい要素 (Uターンを希望している人)		戻ることを検討する要素 (Uターンを希望していない人)	
1位	希望する業種や職種	56.7%	希望する業種や職種	46.9%
2位	給料の高い仕事	53.5%	充実した公共交通網	45.3%
3位	子育てに関する経済的な支援	40.9%	給料の高い仕事	42.2%
4位	住居支援（新築・増改築への支援）	40.2%	大型ショッピングモールや有名百貨店	34.4%
5位	充実した公共交通網	38.6%	子育てに関する経済的な支援	32.8%
6位	余暇の時間を一緒に過ごすことができる気の合う友達や仲間	33.1%	リモートワークができる環境	29.7%
7位	居心地の良い飲食店や居酒屋、おしゃれなカフェ	33.1%	居心地の良い飲食店や居酒屋、おしゃれなカフェ	25.0%
8位	介護に関する経済的な支援	29.1%	住居支援（新築・増改築への支援）	21.9%
9位	育児休暇をとりやすい職場	27.6%	学問や教育を高める機会が充実していること	20.3%
10位	学問や教育を高める機会が充実していること	24.4%	育児休暇をとりやすい職場	18.8%

将来長浜にUターンを希望している人は、＜仕事関連＞**給料の高い仕事、希望する業種や職種**、育児休暇のとりやすさ、＜人間関係＞気の合う仲間、＜住環境＞学問や教養を高める機会、**充実した公共交通網**、居心地のよい空間、＜政策的支援＞**子育て支援、介護支援、住居支援**をUターンしやすい条件に挙げている。Uターンを希望していない人も傾向は概ね一致しているが、気の合う仲間よりも、リモートワーク環境や大型ショッピングモールを挙げている。戻ることを検討しない人はわずか（6.3%）であり、条件を満たすことでUターンを検討する可能性も示唆される。

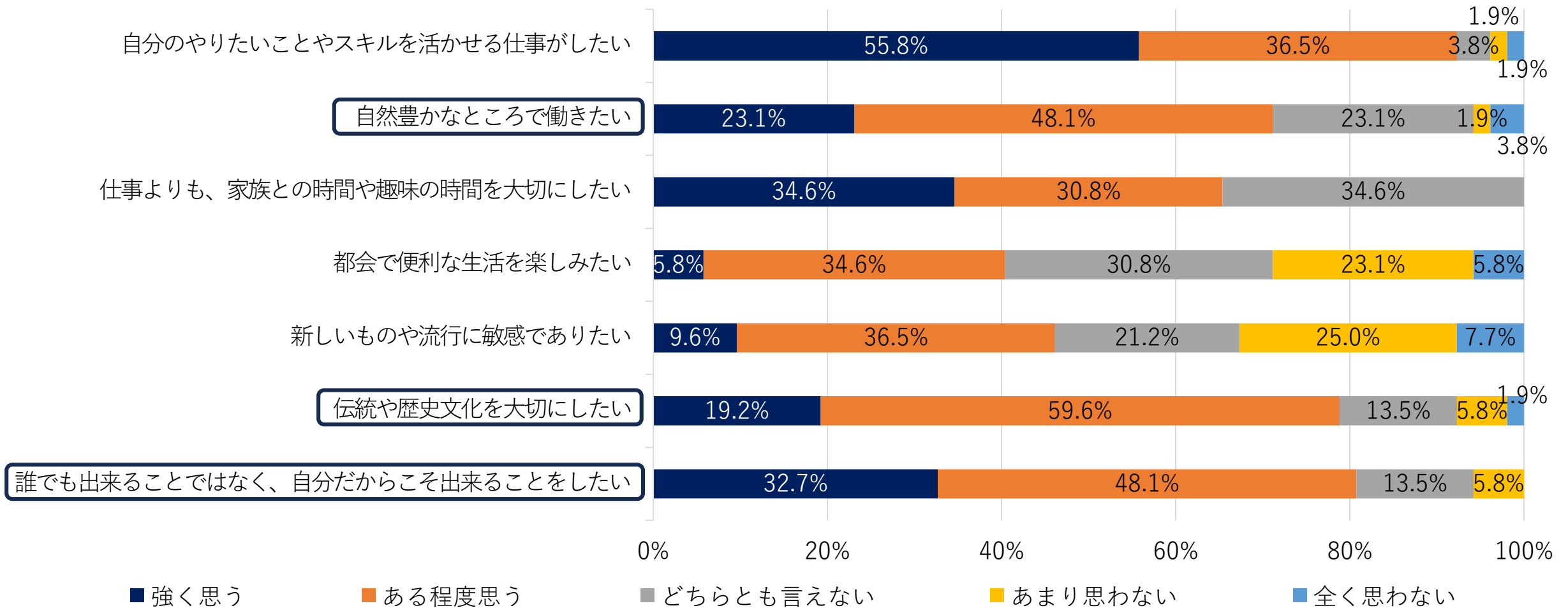
➤ **〔市外転出若者〕** 将来どのような業種を希望しているのか。



・教育、医療・福祉系の業種は、地元に戻って就職する傾向が見受けられる。  
 ・一方で、建設・土木、金融関連、ライフライン、小売関係は、長浜に戻らずに就職する傾向がある。  
 ・Uターン意思の有無に関わらず、**起業をめざす人が割と多い。**

■ Uターン希望あり  
 ■ Uターン希望なし

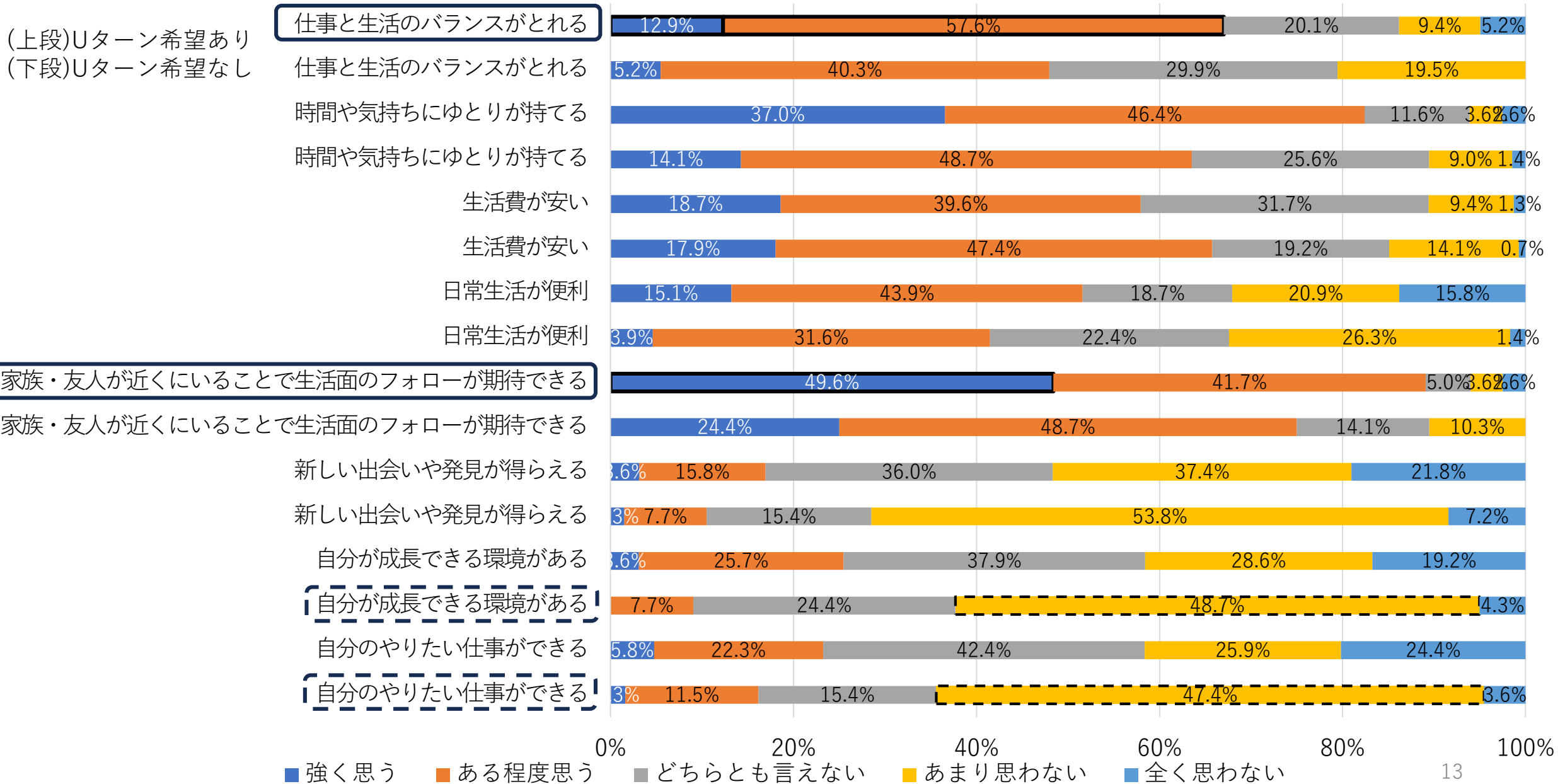
➤ P9のUターンを希望している者のうち、教育関連または医療福祉関連を希望業種に選んだ者（n=52）は、仕事や生活全般についてどのような考え方をもっているか。



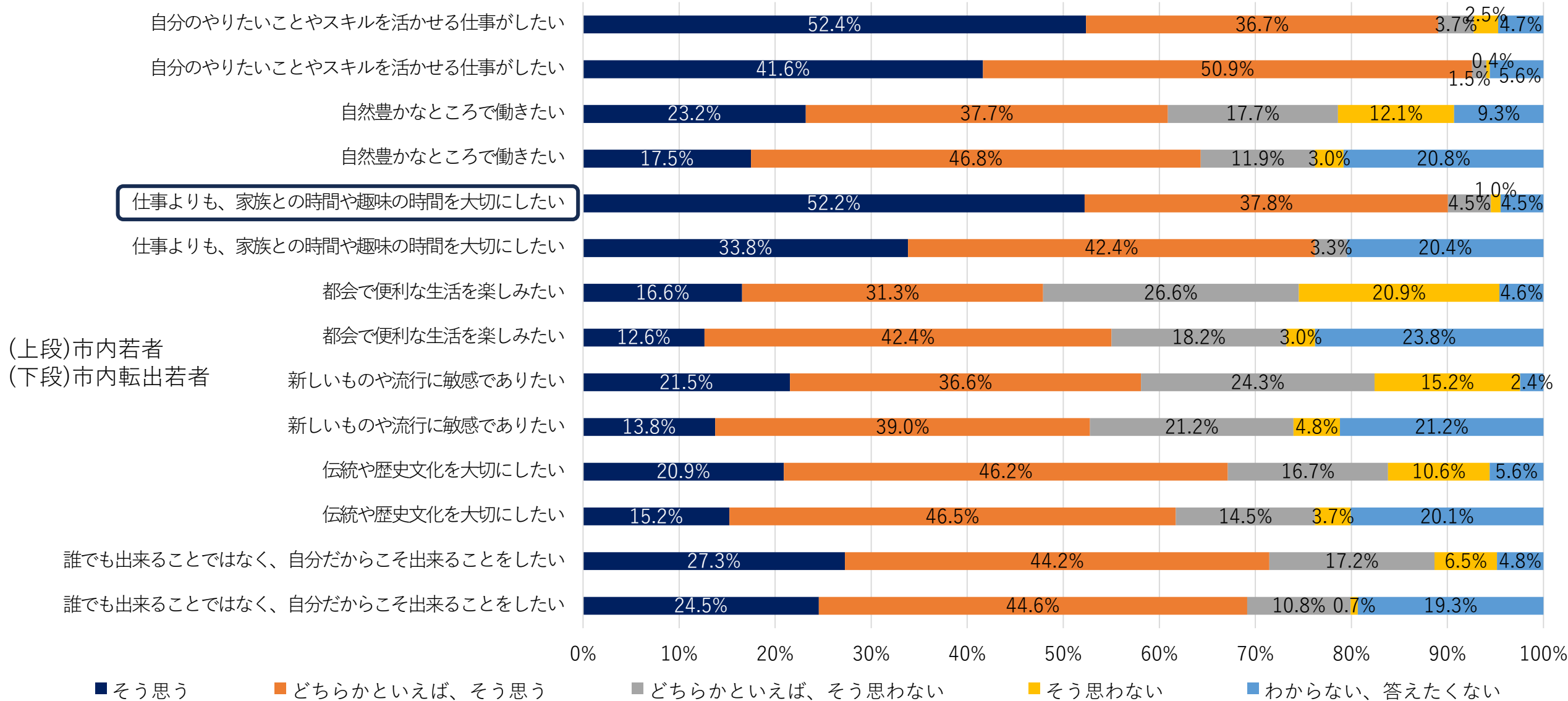
- ・Uターンを希望しているためか、長浜の良さでもある、「**自然豊かなところで働く**」「**伝統や歴史文化を大切に**」ことに肯定的な回答割合が高い。※市内若者の肯定的意見割合はそれぞれ60.9%と67.1%。
- ・「自分だからこそ出来ることがしたい」という回答も、市内若者全体（71.5%）、市外転出若者全体（69.1%）より1割程度高い。

➤ **〔市外転出若者〕** 長浜市での生活にどのようなイメージをもっているのか。

➤ Uターンを希望している者と希望していない者で、イメージ感の違いはあるか。



➤ 〈市内若者〉〔市外転出若者〕仕事や生活全般について、どのような考えをもっているか。



・市内、市外転出問わず概ね同じような傾向であるが、**家族や趣味の時間を大切に**する割合は、**市内若者の方が高い**。実家暮らしなどが関係しているものと思われる。



➤ 〈市内若者〉〔市外転出若者〕子育て、教育について大切だと思うことは何ですか。

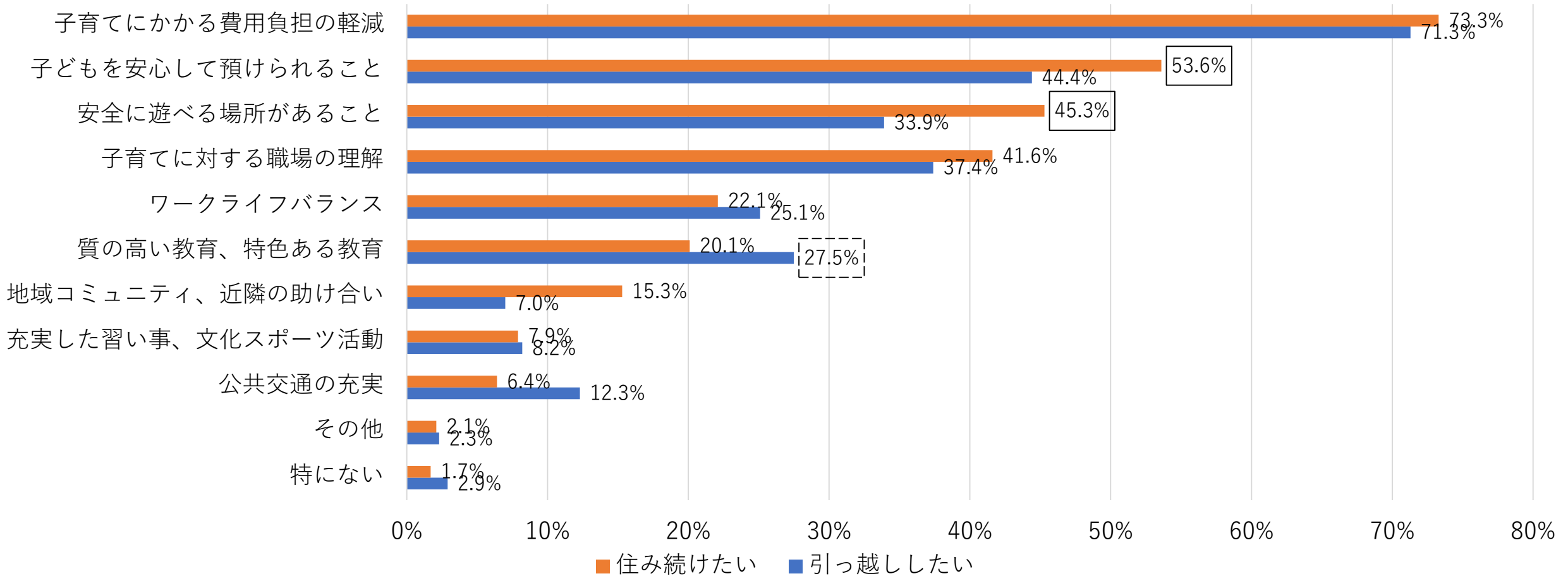
		市内若者	市外転出若者
子育て	1位	医療費や給食費など、子育てにかかる費用負担の軽減	医療費や給食費など、子育てにかかる費用負担の軽減
	2位	子どもを安心して預けられること	安全に遊べる場所があること
	3位	安全に遊べる場所があること	子育てに対する職場の理解
その他の選択肢		ワークライフバランス、質の高い教育・特色ある教育、地域コミュニティ・近隣の助け合い、充実した習い事・文化スポーツ活動、公共交通（バス、タクシー）の充実、その他、特になし	

		市内若者	市外転出若者
教育	1位	知的好奇心が満たせる	こどもの情操教育に必要な自然や文化、芸術が充実している
	2位	こどもの情操教育に必要な自然や文化、芸術が充実している	知的好奇心が満たせる
	3位	道徳教育が充実している	スポーツや運動ができる施設や指導できる人が充実している
その他の選択肢		大学等に進学するための学習支援機関（塾など）が充実している、情報や科学等など最先端技術を学び、体験することができる、その他	

- ・ **子育て**について、市内・市外ともに**経済的支援への割合がトップ**で、いずれも7割以上が回答している。
- ・ 一方、公共交通の充実や習い事・文化スポーツ活動、地域の助け合いなど、やや側面的・間接的なものは低い割合となっている。
- ・ **教育**については、**順位間に大きな差はなく**、最も低い割合のものでも3～4割が回答している。

➤ **〈市内若者〉** 定住意向と、**子育て・教育**に対する考え方の関係性

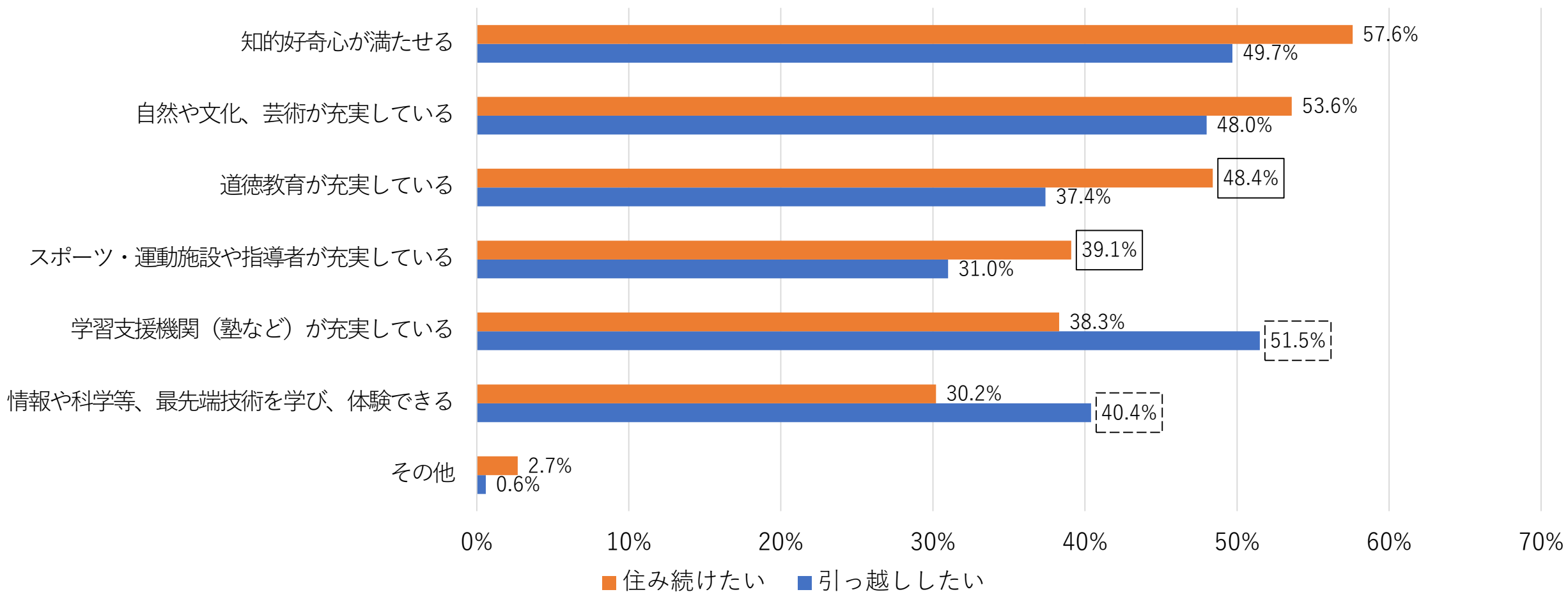
長浜に住み続けたい人と引っ越ししたい人で、大切だと考えることに相違があるかについて分析



- ・ 比較的違いがあったものとして、「安心して預けられること」「安全に遊べる場所」は定住を希望する者がより多く求めている。
- ・ 一方、「質の高い教育・特色ある教育」は引っ越ししたい人がより多く求めている。

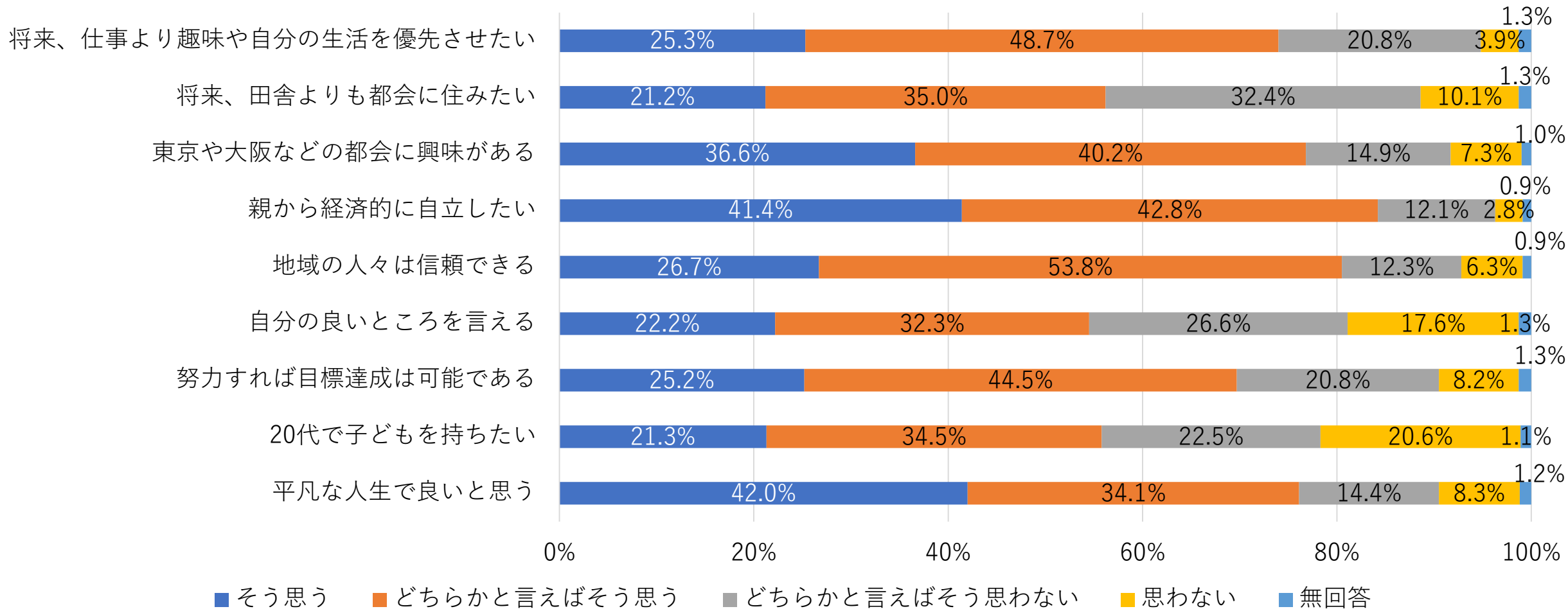


➤ 〈市内若者〉 定住意向と、子育て・**教育**に対する考え方の関係性



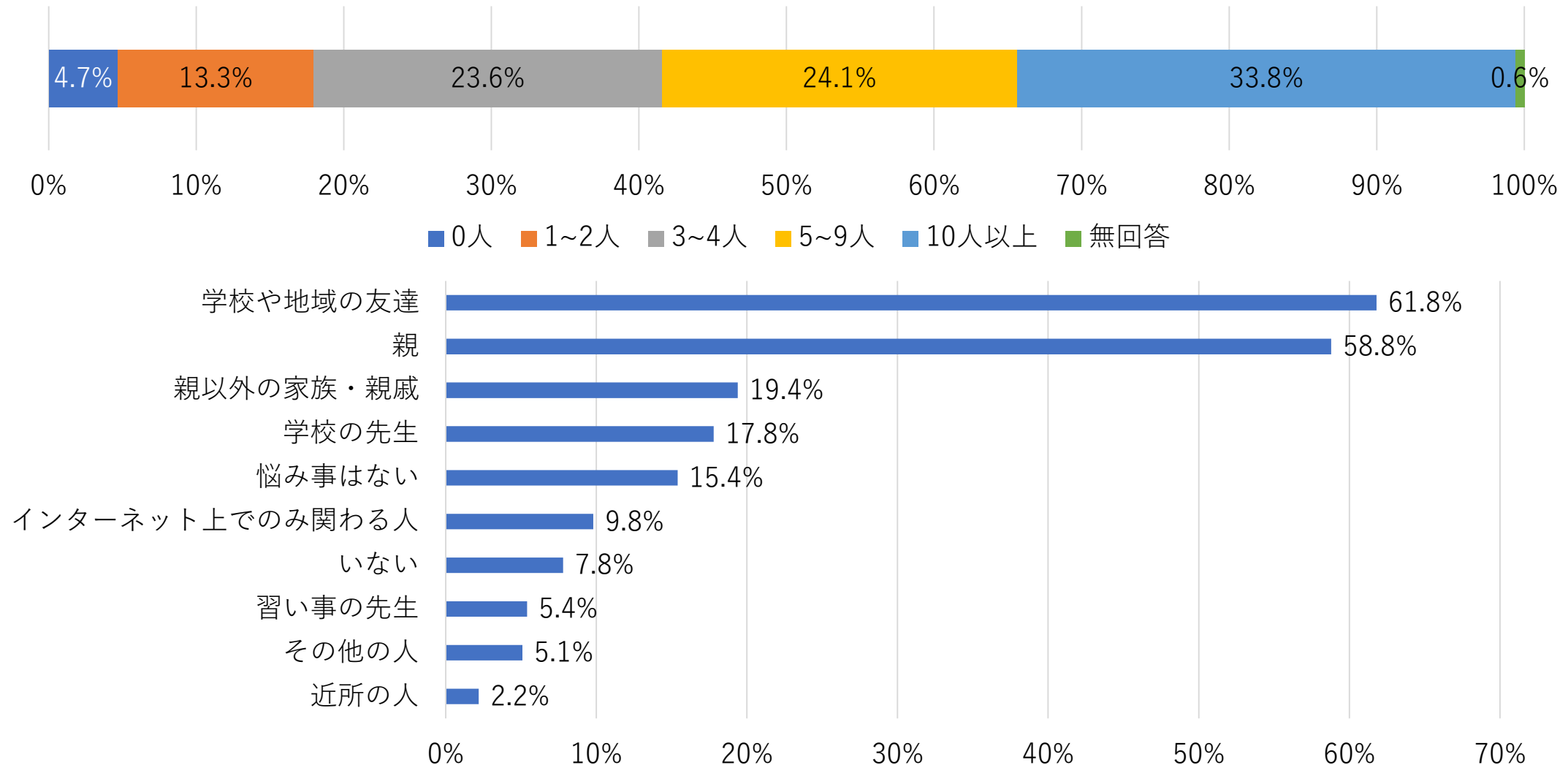
- ・ 比較的違いがあったものとして、「**道徳教育の充実**」「**施設等の充実**」は定住を希望する者がより多く求めている。
- ・ 一方、「塾などの環境」「最先端の学び」は引っ越ししたい人がより多く求めている。これは、子育てにおいても、質や特色ある教育を求める傾向が高いことと関連していると考えられる。

➤ 〈高校生〉 自分自身の考えにどの程度あてはまるか？



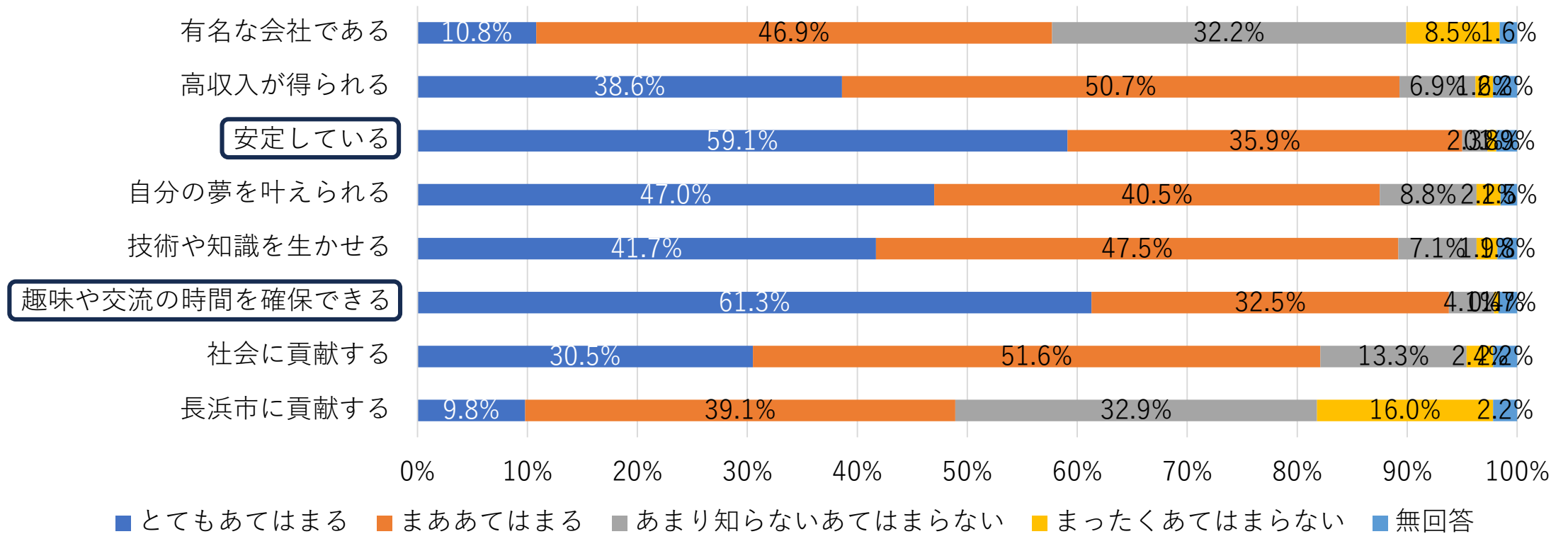
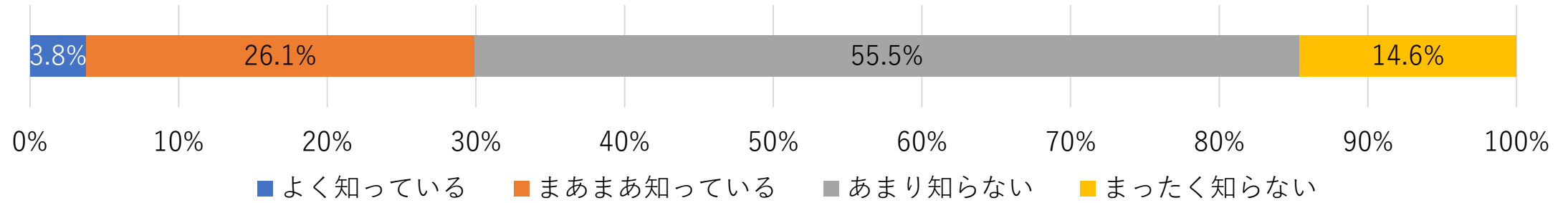
- ・多くの高校生の考えと合っているのは「親からの経済的自立」「都会への興味」「平凡な人生」で、8割前後がそう回答している。
- ・「地域の人々への信頼感」も8割以上が肯定的に捉えている。

➤ 〈高校生〉信頼のおける友達は何人いるか？また悩み事を気軽に話せる人はいるか？



- ・ 友達の数是比较的によく、悩み事の相談相手としても大切な存在だと言える。
- ・ その一方で7.8%（人）が悩み事を話せる人がいないと回答していることも重要な課題である。

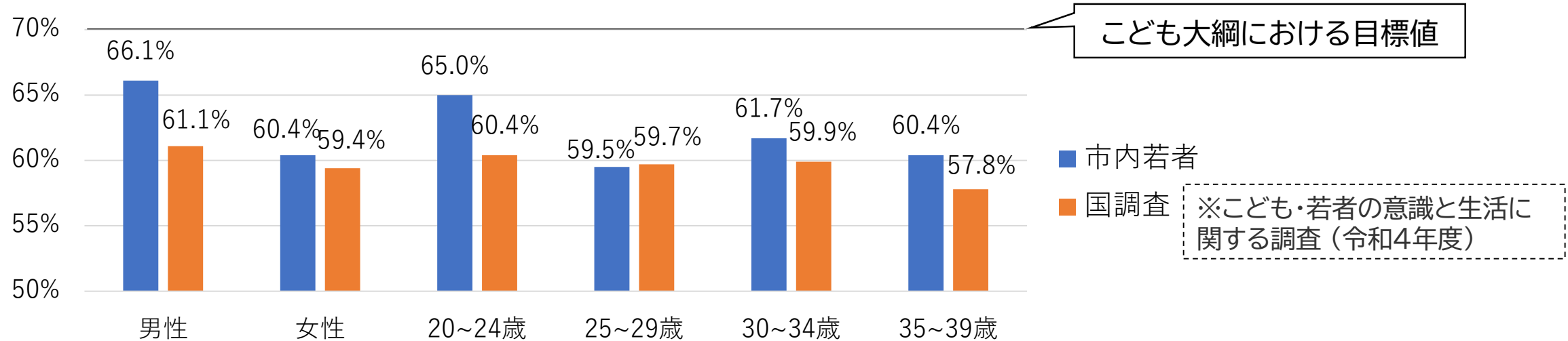
➤ 〈高校生〉市内にある地元の企業をどの程度知っているか？また、将来の職業を考える上で以下の項目について重視するか？



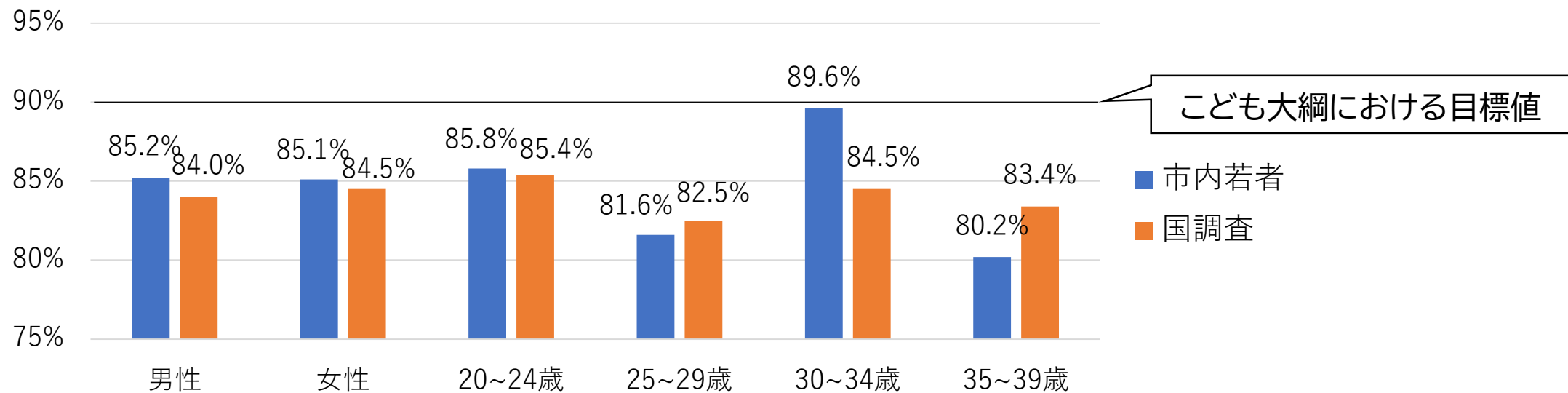
・職業の選択にあたっては、安定志向が強く、仕事以外の活動時間を大事にしたい傾向がある。

➤ 〈市内若者〉 「こども大綱」における目標に対する現状（市内若者と国調査との比較）

(1) 「今の自分が好きだ」と思うこども・若者の割合（自己肯定感の高さ）

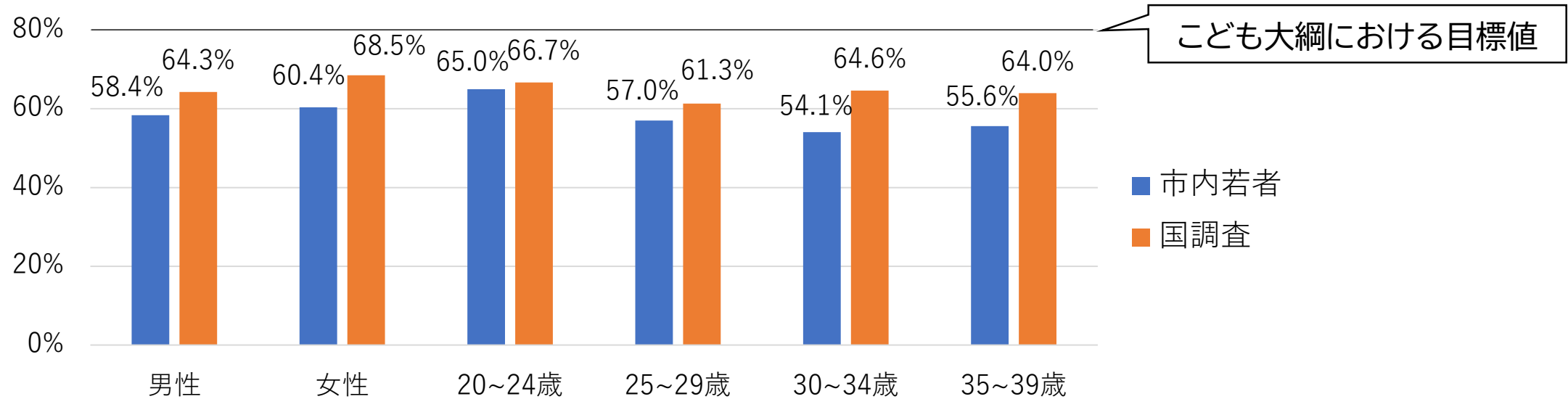


(2) 「自分には自分らしさというものがある」と思うこども・若者の割合



➤ 〈市内若者〉 「こども大綱」における目標に対する現状

(3) 「自分の将来について明るい希望がある」と思うこども・若者の割合



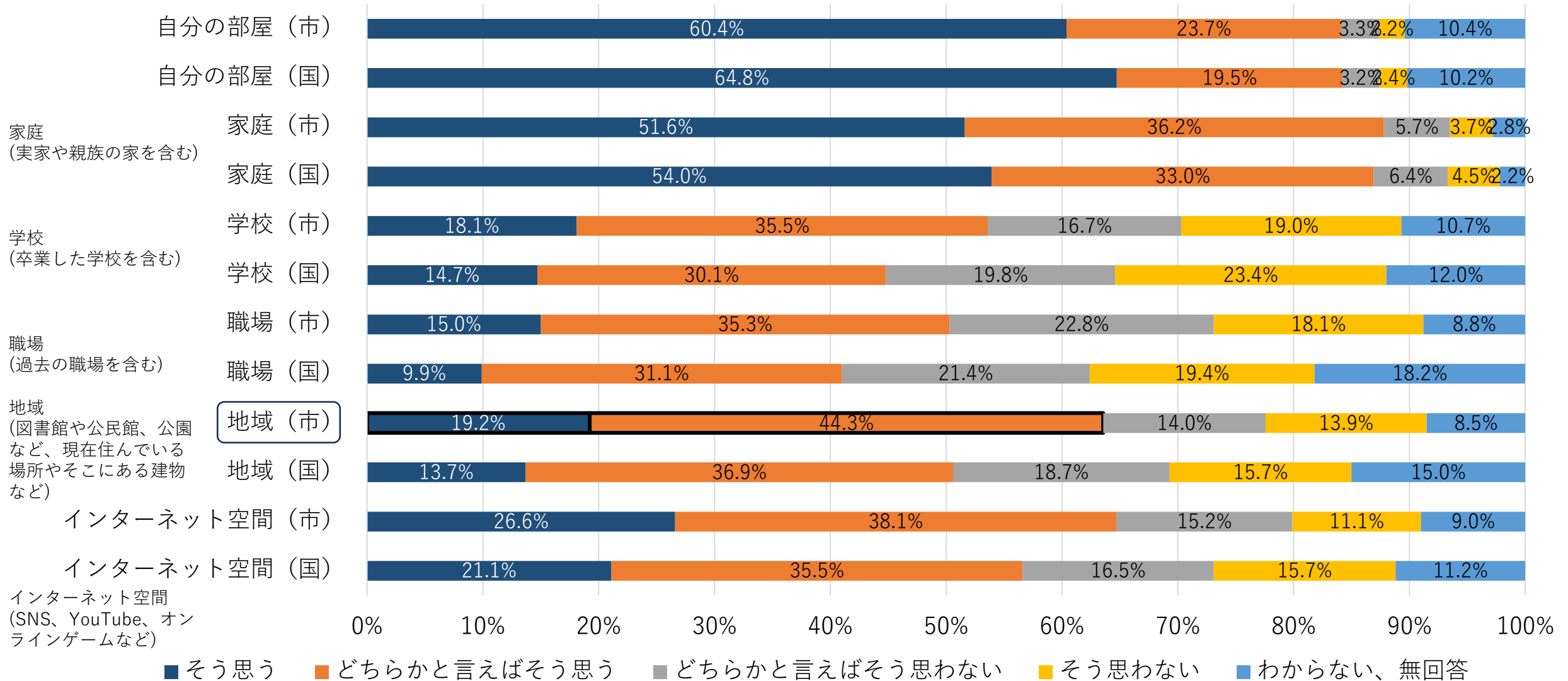
- ・ 「**自己肯定感**」や「**自分らしさ**」については、国調査よりも**肯定的に捉えている若者が多い**。
- ・ 一方、「**将来への希望**」については、性別、年代別ともに国調査より**低い割合**となっている。また今回の調査で尋ねた「**将来への不安や心配**」について約9割が「**あてはまる**」「**どちらかと言えばあてはまる**」と回答しており、不安や心配はありつつも、将来展望をいかに設計していけるかが一つのポイントになると考えられる。

➤ **〈市内若者〉** にとって安心できる居場所とは？（内閣府調査※との対比）

若者にとって**安心できる場所（ほっとできる場所、居心地のよい場所）**かどうかについて、また安心できる場所と回答した場所の個数について、市内の若者と国調査とを比較。

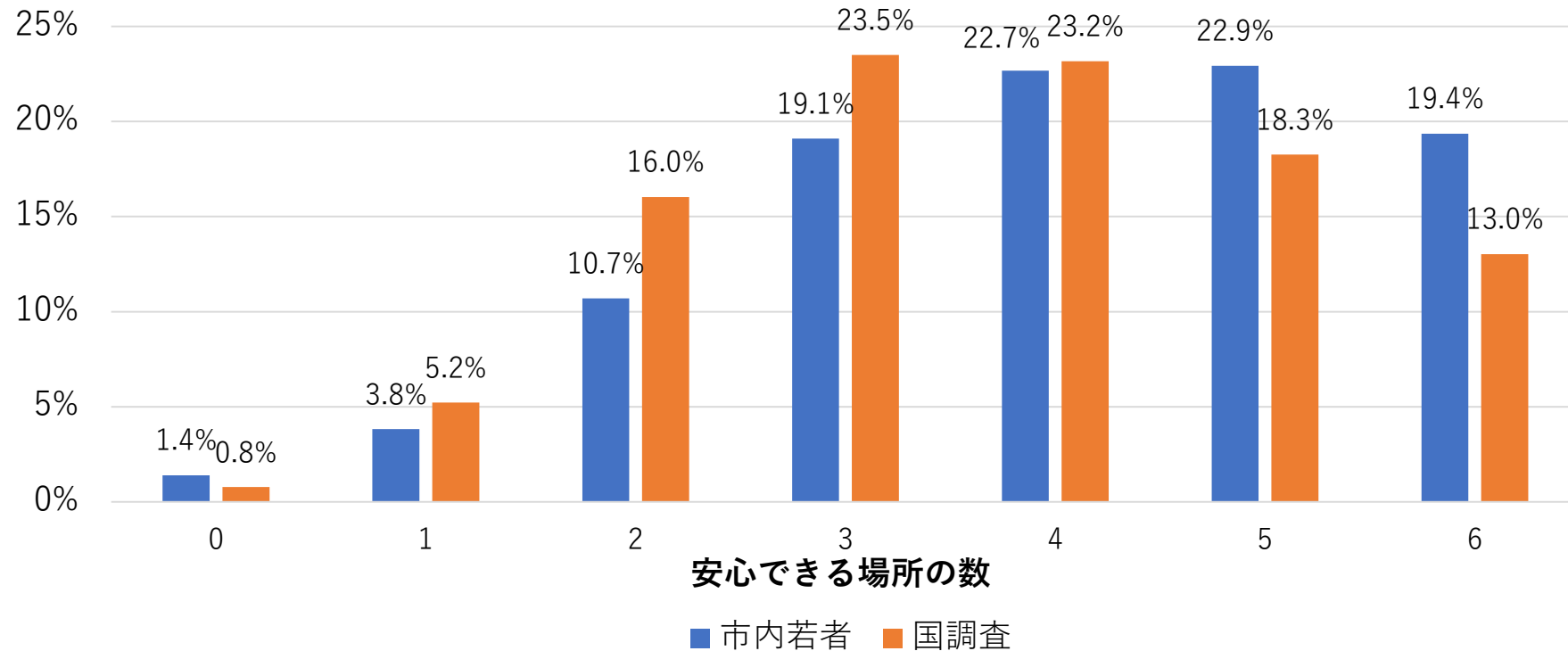
※こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）

（国：n=7,035、市：n=785）



➤ **〈市内若者〉** にとって安心できる居場所とは？（内閣府調査との対比）

若者にとって安心できる場所（ほっとできる場所、居心地のよい場所）かどうかについて、また**安心できる場所と回答した場所の個数**について、市内の若者と国調査とを比較。

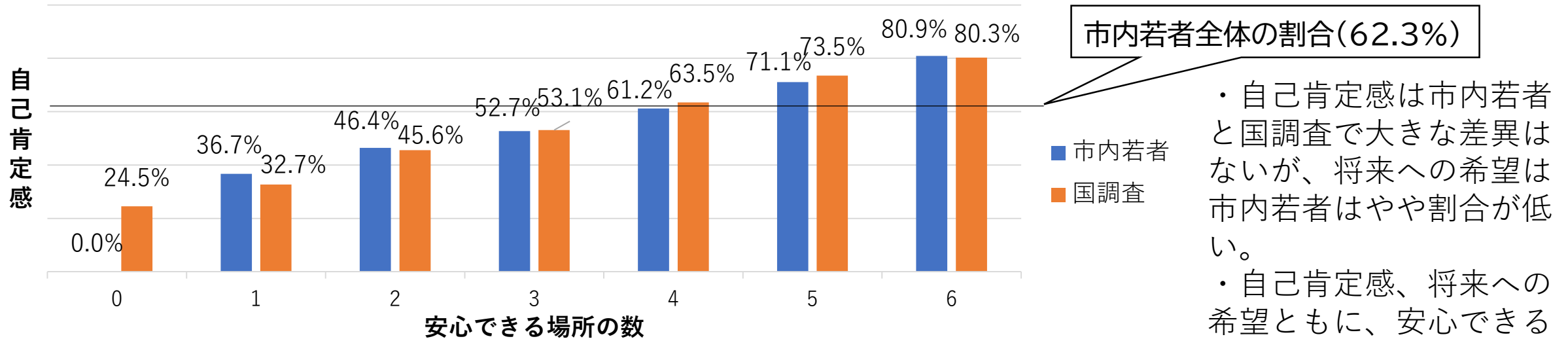


- ・市内の若者は国調査と比べ、全ての場所が安心できると認識している割合が高い。中でも**地域（施設や建物）**に対して**安心できる場所という認識が高く**、いわゆる第3の居場所の重要性が伺える。
- ・**安心できる場所の数においても、国調査より多い**（国平均；3.70、市内若者；4.04）。より多くの安心できる場所を見つけることで、住み心地の良さを高め、定住につなげるきっかけになるかもしれない。

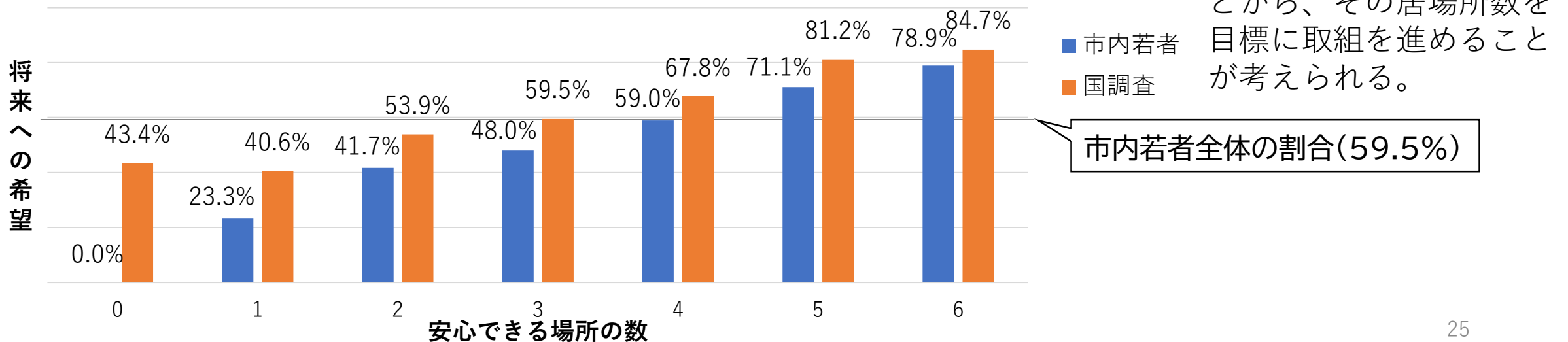


➤ 〈市内若者〉 安心できる居場所の数と前向きな自己認識との関係性（内閣府調査との対比）

(1) 自己肯定感（今の自分が好きだ）

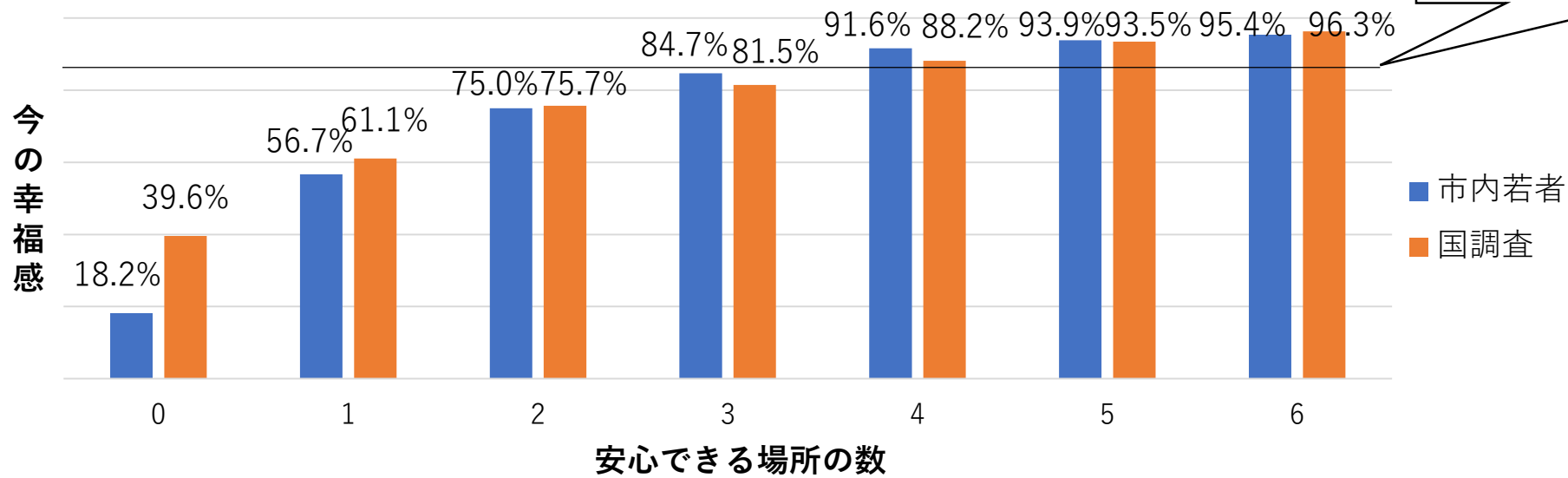


(2) 将来への希望（自分の将来について明るい希望を持っている）



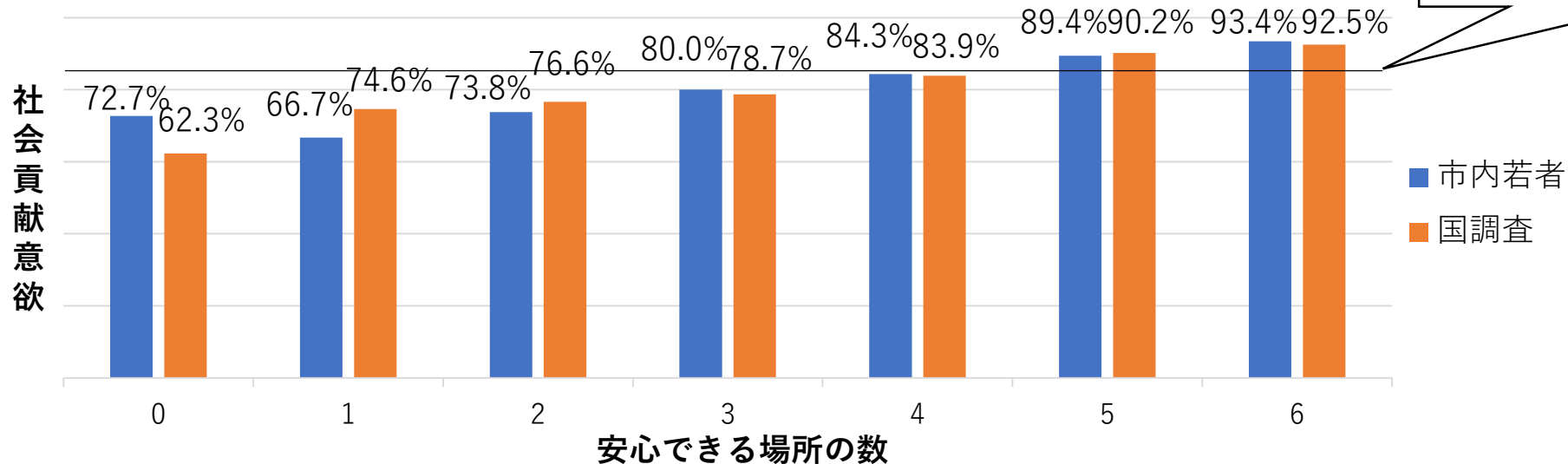
➤ 〈市内若者〉 安心できる居場所の数と前向きな自己認識との関係性（内閣府調査との対比）

(3) 今の幸福感（今、自分が幸せだと思う）



・ 幸福感、社会貢献意欲とも、市内若者と国調査で大きな差異はない。  
 ・ 先の自己肯定感や将来への希望と同様、安心できる場所数は4カ所が一つのポイントになっている。

(4) 社会貢献意欲（社会のために役立つことをしたい）



# まとめ

- 将来の居住に対する考え方は、仕事に就いた段階が大きく影響している。
- 市外に転出した者の方が、愛着や親しみを感じている傾向が強く、故郷（地元）に何かしらのつながりを持っていたい意識が見受けられる。市外転出若者の長浜市との関わり方は、帰省や家族・知人に会うなど、人間関係を介している人が多い。
- 各年代問わず、住み心地は良いと考える人はとても多い。
- 30～34歳は他の年代よりUターンの希望割合がやや低い。また労働意欲が高く、趣味や自分事、自然などへの思いは比較的低い。
- 教育、医療・福祉系の業種は、地元に戻って就職する傾向が見受けられる。
- Uターン希望者は、仕事と生活のバランス、家族友人のフォローへの期待値が高い。
- 子育てについて、市内・市外ともに経済的支援への割合が一番高い。
- 「塾などの環境」「最先端の学び」は引っ越ししたい人がより多く求めている。
- 「親からの経済的自立」「都会に興味がある」「平凡な人生でよい」「地域の人々が信頼できる」と考える高校生の割合が高い。
- 高校生は信頼のおける友達の数も多く、悩み事の相談相手として大切な存在。一方で悩み事を話せる人がいない人も一定数いる。
- 高校生の職業の選択にあたっては、安定志向が強く、仕事以外の活動時間を大事にしたい傾向がある。
- 現在住んでいる場所やそこにある建物など「地域を安心できる場所」と捉える若者が多い。
- 安心できる場所の数も、国調査より多く（国平均；3.70、市内若者；4.04）、より多くの安心できる場所を見つけることで、住み心地の良さを高め、定住につなげるきっかけになるかもしれない。